

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL. 26 2011/10/11

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所）が発行しているメールマガジンです。

ホームページ等で配信登録された方にお送りしています。

アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者からのお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信できませんのでご了承ください。

※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。

=====
今月号のトピックス
=====

第26号の内容はこちらです。

■イベントのお知らせ

- 旭川建築協会と共催で技術勉強会を開催します
- 第15回住居領域学習研修会を開催します

■特集 「北方型住宅」

■研究紹介 「既存老人介護施設のユニットケア改修、改築に関する研究」

■最近の研究所の動き

- 調査研究発表会（札幌）を開催しました
- ジャパンホームショーに出展しました
- 旭川FMセミナーと視察会を開催しました
- 論文発表と学会発表
- 9月の業務報告
- 構造計算適合性判定センターから

=====
イベントのお知らせ
=====

■【旭川建築協会と共催で技術勉強会を開催します】

日時：平成23年10月27日（木）13：30～15：30
場所：北方建築総合研究所多目的ホール

社団法人旭川建築協会様が年数回実施している技術勉強会について、第1回を北総研との共催で実施します。

この勉強会では、旭川市内の建築関係者を対象として、北総研で発行した「木造住宅の接合部設計・開発」の内容について解説を行います。
また、北総研施設の見学会も合わせて実施します。

プログラム、申込方法は北総研のホームページをご覧ください。

（企画課 伊藤）

■【第15回住居領域学習研修会を開催します】

日付：平成23年11月5日（火）13：00～17：00
場所：北方建築総合研究所多目的ホール

この事業は、子ども達に住まいやまちに対する認識を深めてもらい、将来の家庭や地域を担う人を育むことを目的に、そのために家庭科を担当する先生を対象に住居領域の授業の大切さや方法などを知ってもらうものです。
本研修会は毎年2回開催し、住居領域の学習教材に関する講義や授業実践報告などを行っています。
今年のテーマは「住まいと健康」で、健康的な暮らしの条件や、健康を阻害する事例などについて解説します。

プログラム、申込方法は北総研のホームページをご覧ください。

（居住科学G 馬場）

=====

特集 「北方型住宅」

=====

昭和63年にスタートした最初の「北方型住宅」は、「豊かな住まい・住まいづくり」を目指し開発・普及を進めてきました。この結果、耐久性や省エネルギー性といった住宅水準の向上や道民の性能水準への理解、景観への配慮など住まいに対する意識の向上などが図られました。

北方型住宅団地がいくつか造られ、組み込み車庫などの必須事項に加え建築協定による斜線制限や色、形の規制もあり、街並みも整ったものとなりました。

当研究所の3階から当時の「北方型住宅」の団地が見えます。形状や色が統一された三角の屋根郡や成長して屋根と屋根の間から見えるシンボルツリーを含めた樹木。20年以上を経ても「住みたくなる」団地です。中古住宅価格も高めに維持されています。

その団地の手前に住宅展示場があります。ここから見てわかる20年を経た両者の違いは、外観は屋根上の太陽光発電の有無と外装材の違いくらいです。建物形状や色使いは、当たり前ですが各社でコンセプトが異なるため住宅団地としては統一感がほとんど感じられません。

これからの住宅や団地はどのように変わっていくのでしょうか。

平成17年から現在に至る「北方型住宅の新たな展開」では、北海道の住宅の新たな目標像として「あったか長持ちともに育む北の住まい 次世代に継承される良質な資産となる住宅」を掲げました。「あったか長持ち」についてはある一定のレベルに達してきており、今後のビジョンが出来つつあります。しかし、「次世代に継承される良質な資産となる」については、社会的な仕組みを含めて、まだ十分には達成されていないと感じています。

「住みたく（建てたく）なる家」、「住みたくなる街」を造ることによりこれは実現できると思います。「住みたくなる家・街」とは・・・。高い基本性能を有してそれが表示され、床や壁などの改修が容易で、必要な場所に建っている。緑が豊かで近くに川がある、交通の利便が良い、安全安心な環境等々。現在、各方面でこれからの住宅についての検討を行っています。これらを基に少し長期的な視野にたった「北方型住宅」のビジョンを作成して行きたいと考えています。

(居住科学G 廣田)

=====

研究紹介「既存老人介護施設のユニットケア改修、改築に関する研究」
(H22～23 経常研究)

=====

北海道における65歳以上の高齢者人口は130万人を超え、4人に1人が高齢者という超高齢社会へと突入しています。要介護者数が年々増加する中で、従来の集団処遇から小規模生活単位（ユニットケア）への介護方式の方針転換に、道内の老人介護施設の多くが対応できないまま、施設の老朽化を迎えており、既存老人介護施設のユニットケア改修方法を示すことが必要になっています。

入居者の居住環境を確保し管理運営のしやすい施設への改修改築の計画手法を検討するために、既存施設の空間構成と建築環境の実態調査を行っています。昨年は全道の老人福祉施設に対してアンケート調査を行い、ユニットケアの意向や実施における課題などを把握しました。また、エネルギー消費量と温熱環境の測定を行い、従来型とユニット型を比較しました。

今年は介護職員の動線調査を行い、行動の場所と内容から部屋間の関連度や移動距離を求め効率を分析しています。頻度が高い部屋が離れていると、職員の負担も大きく入所者の待ち時間も長くなります。今後は改修を計画している老人介護施設管理者に対して改修検討時における計画設計支援を行い、入所者と介護者の双方にとって快適な施設を実現していきたいと考えています。

(居住科学G 林)

=====

最近の研究所の動き

=====

■【調査研究発表会（札幌）を開催しました】

平成23年9月8日（木）、札幌エルプラザにて「平成23年北方建築総合研究所調査研究発表会（札幌）」を開催し、221名のご参加をいただきました。

今年の発表会では、「住まいと地域産業」「住宅の環境負荷低減」「安全安心なすまい・まちづくりに向けて」「災害を教訓に地域再生を考える」の4つのテーマを設定し、研究成果を交え発表を行いました。

発表後の質疑及びご参加いただいた皆様からのアンケート結果等から、貴重なご意見をいただいておりますので、今後の研究活動や発表会に活かしていくとともに、これからも様々な形で研究成果の普及を行ってまいります。

(企画課 神田)

■【ジャパンホームショーに出展しました】

平成23年9月28日(水)～30(金)、東京都「東京ビッグサイト」にて開催された第33回Japan Home & Building Showに出展しました。

この展示会は、毎年秋に東京ビッグサイトで行われ、住宅建材や設備機器に関する日本最大規模の展示会で、5万名近い来場者があります。

北総研は、道内民間企業・北海道庁・林産試験場などとともに毎年「北海道グループ」として出展しています。

今年度も道産住宅技術・建材の全国への販路拡大を図るとともに、北方型住宅をはじめとする北海道の住宅技術の全国への発信と北総研の活動紹介などを行いました。

「北海道グループ」では、参加各企業の個別ブースの他に20席程度のミニセミナー会場を設け、各出展企業のプレゼンテーションや北総研・林産試験場・北海道庁の技術セミナーを行いました。ほとんどのセミナーで立ち見で参加していただく方が出るほど盛況で、北海道の住宅建築技術や木材利用・建築材料・住宅設備に関して全国的に高い関心が持たれていることが伺えました。

また、30日(金)には、前田国土交通大臣が見えられ、短い時間ではありますが企画調整部長の福島が先進技術の説明を行った他、各ブース内で各出展企業の製品や各種木材加工製品について説明することができ、高性能な北海道の住宅を支える様々な技術について興味を持っていただきました。

次年度以降もこのような展示会に出展することで、道産の住宅技術の発信を、全国に向けて行っていきます。

(企画課 伊藤)

■【旭川FMセミナーと視察会を開催しました】

平成23年10月5日(水)、北総研多目的ホールにて、北海道ファシリティマネジメント協会様と、適切な施設の維持管理について、主に病院関係者と市町村関係者を対象にセミナーを開催しました。

